



第47号

# さらしな

## 友の会だより



2022・秋



### 生きた鉄道博物「区間」

#### スイッチバック式の 羽尾信号場の役割は終わっても

←羽尾信号場跡地

JR篠ノ井線は開業して120年を超えました。長くその役割を果たしてきた羽尾信号場は2008年に廃止されたのですが、この機会にその役目などを振り返っておきたいと思います。

しまいます。信号場をもうけることで、駅と駅の間を通過できる列車の本数を増やすことができます。

篠ノ井線は昭和30年代以降、輸送力増強のため、1961年に桑ノ原信号場（稻荷山―姨捨間）と潮沢信号場（西条―明科間、88年廃止）が開設され、65年には平瀬信号場（田沢―松本間）、そして翌年の66年に羽尾信号場が開設されました。羽尾信号場は日本で最末期に開設された信号場のひとつです。

羽尾信号場の特徴はスイッチバック式である点です。急勾配の途中に一般的な行き違い設備を作ってしまうと、停車したあと発車するのがむずかしいため、篠ノ井線ならではの特徴です。

ある日の上り列車を例に流れをみてみましょう。①普通列車松本行は、本線から分岐した冠着駅側の支線に入線し、ただちにバックして反対（姨捨駅）側の支線に入線します②長野行の特急しなの号が通過します③支線から本線に入り、信号場を後にします。

羽尾信号場の廃止は、貨物列車や旅客列車の輸送量の減少や、列車のスピードアップ、冠着駅（冠着駅も当初は信号場）でも行き違いができることなどが理由です。御麓の集落にこだました汽笛を、もう聞くことはできません。

姨捨―冠着駅間は、篠ノ井線のハイライト区間です。姨捨駅を出発した列車は眼下に棚田と善光寺平を望みつつ、25パーミルの急勾配を右に左にカーブしながら、羽尾信号場跡を通過し、冠着トンネルへと進みます。軌道敷やトンネル、橋梁は明治33（1900）年の開業当時のままで、トンネルの排煙装置やスイッチバックなど峠越えの設備が点在しています。まさに「生きた鉄道博物館」といえる区間でしょう。

（千曲市歴史文化財センター）

主査 平林大樹

# 冠着山と更級の里 文化財として整備へ



千曲市新文化財保存活用計画

- 1 交通の要衝と道に関わる文化財群
 

歴史文化の特徴 北信濃の十字路  
交通の要衝がつくる、「道」の歴史文化
- 2 冠着山に関わる文化財群
 

歴史文化の特徴 冠着山をおおく  
自然と調和・共存する、「山と信仰」の歴史文化
- 3 観月と観光に関わる文化財群
 

歴史文化の特徴 月の都に生きる  
月を愛で、旅人が行き交う、「観月」の歴史文化
- 4 養蚕業と果樹栽培に関わる文化財群
 

歴史文化の特徴 繭の技を受け継ぐ  
繭繅・花・工業、「繭織王夫」の歴史文化
- 5 千曲川と湧水に関わる文化財群
 

歴史文化の特徴 千曲川とともに  
湧水と調い、暮らしを支えた「水」の歴史文化
- 6 教育と郷土史研究に関わる文化財群
 

歴史文化の特徴 千曲を知り・学ぶ  
郷土を学ぶ「研究・教育」の歴史文化

千曲市の新しい文化財保存活用計画ができました。いちばん評価できると思っただけは、「冠着山と更級の里を、それぞれ保存活用対象の柱として明確に位置付けたことです。姨捨山の別名を持つ冠着山には自然だけでなく修験道といった信仰・歴史文化があります。そのふもとに広がる更級の里には、姨捨山の歴史を刻む石碑や月の句碑など文化財級のものがあります。

計画が全国に先駆けて国に認められたことで、国の支援が結構期待できるそうです。千曲市のシンボルともいえる冠着山の資料集や保存活用に着手することは、千曲市の魅力を県内外に発信する有力な施策になります。千曲市歴史文化財センターが9月10日、さらしなの里歴史資料館で開催した説明会では、国の支援を受け早速にとりかかってほしいと要望しました。計画の全文は市のホームページ（上のQRコード）で読むことができます。

（芝原区・大谷善邦）

## リレイ 里麗エッセイ

### 渦巻きかりんとうは縄文時代にルーツ？

千曲市仙石 西澤宜子

今年、更級小学校の郷土料理クラブに参加したとき、子どもさんに「おばあちゃん、郷土料理で好きなものは何？」と聞かれました。

郷土料理といえば、おやき、おとうじ、ニラの薄焼きなどいろいろありますが、今回クラブで作った「渦巻きかりんとう」が、私には子どものころの思い出があり、「渦巻きかりんとうかな」と答えました。



渦巻きかりんとう



パンフレットに描かれた土器の渦巻き模様

子どもころは今の私からは考えられませんが、体が弱く毎月お医者通いで薬が苦手でなかなか飲めず苦労していました。そんなとき、母が作ってくれたのが、渦巻きかりんとうでした。それが楽しみで頑張って薬を飲んだものです。

そんななか、渦巻きかりんとう。昔からお盆にも作られていたので、どういう意味があるのか興味をわき調べてみました。渦巻きかりんとうは長野県ではおもに、千曲川流域の千曲市、長野市、上田市周辺で作られているようです。千曲川沿いには渦巻きのできる場所が多くあり、サケ、マス、ウナギなどの魚が海から多数遡上し、食糧には事欠かない豊かな場所だったそうです。

そんなところには縄文遺跡が多くあり、さらしなの里で発掘された土器にも渦巻き模様がかかれています。この模様を入れることが豊かな生活を送るうえで何らかの大切な意味があったのかもしれない。

今私たちが食べている渦巻きかりんとうが、縄文時代につながっているかもしれないと思うと、不思議です。



更級地区の里山、堂の山の案内看板が7月、完成しました。デザインは、堂の山復活プロジェクト実行委員の高木眞さん(千曲市桑

原在住)です。細部にまでこだわった看板です。ぜひみなさん見においでください。そしてその案内を参考に、里山に咲く小さな花や蝶やト



## 「堂の山」案内看板設置

ンボなどを見たり、野鳥の声を聴いたりしながら堂の山をのんびりと歩いてみてください。きっと心がホッとするのではないのでしょうか。お待ちしております。

ところで先日、堂の山で、虫とり網を持った親子5人に会いました。父親は更級小学校の卒業生で、小学校の時には月2回くらい堂の山に校外学習に来て、それがとても楽しい思い出になっているそうです。今は千曲市植生地区在住ですが、堂の山の整備状況を知り、子どもを連れて遊びに来たそうです。小さい頃楽しかった自然体験は大人になっても残っているのですね。ぜひそんな体験においでください。

(堂の山復活プロジェクト事務局 大谷公人 芝原区)



## 旧更級郡地域の歴史講座

した。今年度は、旧更級郡地域を中心に縄文時代から中世の各時代の歴史などを話す全7回の講座で、第1回の講座を9月10日、開催しました。

講師は歴史文化財センターの稲玉修治所長(現在はふるさと振興課長)で、7月に文化庁の認定を受けた「千曲市文化財保存活用地域計画」の内容と今後の取り組みについて説明がありました。旧更級郡地域に数多くある文化財、特に未指定文化財をどのように保存し活用し、そして多くの方々に知ってもらおうか。市が描いている構想を話しました。また、自らも栽培を手掛けているアンズについて、その歴史などを紹介しました。

さらしなの里歴史資料館は毎年3月に講師をお招きして講演会を開催していましたが、昨今の新型コロナウイルス感染症のまん延により、ここ2年間中止しておりました。

このたび、新たな試みとして、千曲市の学芸員と外部講師2名が、それぞれの専門分野を紹介する「千曲市歴史講座」を企画しま

**編集後記** 今年度は鉄道開業150年。篠ノ井線の歴史に詳しい平林さんに寄稿をお願いしました。冠着トネルの窒息事故を報じる記事の脇には、「ソ聯」という今は無き国が見出しの記事。76年たっても戦争の悲劇は続いています▽西澤さんの作る渦巻きかりんとうの模様は縄文の模様とそっくり。この模様がある土器は、さらしなの里歴史資料館の廊下の奥に展示してあります。